２０２１ 沢便り１０　天晴れのスケッチ山行

上高地・焼岳（2021/10/3-4）

Ｓ治、Ｈ口

紅葉シーズンの涸沢に泊りがけで行って絵を描くなんてどうかとＳ治さんが企画を立ててくれた。屏風のような穂高岳を前に紅葉と色とりどりのテント、面白そうな構図が想像される。ところが１０月頭の涸沢は人気が高く小屋の予約は取れなかった。
その企画自体は流れたが上高地周辺でスケッチ山行をしてみたい旨を伝えたらＳ治さんは焼岳小屋の予約を取ってくれた。
大正池から見る焼岳は深い溝のある独特な容姿を見せてくれるが、焼岳から見ると梓川に沿った上高地の様子がどのように見えるのか、描きたい景色が見えるのだろうかと期待が膨らんできた。

仕事から帰っての独り運転、今日はなぜか疲れが残っていて、早々に八ヶ岳 P.A. で車中泊することにした。

朝、前方には八ヶ岳、後方には甲斐駒ヶ岳。明るくなるにつれ空には青みが増してきた。ちょうど台風１６号が過ぎ去ったおかげだ。今日の景色に期待が膨らむ。
しかし諏訪 S.A.に立ち寄ると諏訪湖の外輪山の頂上付近に雲が溜まっている。焼岳からの眺めが少し心配になってきた。

９：１０、松本駅でＳ治さんをピックアップして沢渡の駐車場へと向かう。２ｋｍにも渡る駐車場のどこに車を停めようかと思っていたら、なめらかに誘導する手招きに吸い込まれてしまった（僕がイワナなら毛鉤を見た途端に食いついて釣られちゃうんだろうな）。
準備を整えて駐車場の受付に料金を払いに行くと、でっぷりしたオジサンに「一泊なら１，４００円」と言われ料金を支払った。さらにオジサンは
「上高地までのバス待つんだったらもう二人集めてタクシーで行った方がうんと安いよ。前の二人に声掛けてみたら」と言われた。
沢渡から大正池までバスなら一人＠１，９００円だが、タクシーだと乗れるだけ乗って３，８００円である。二人でもトントンであるがまあ試しに聞いてみようか。
前の二人組もちょうど大正池までだと言う事で相乗りすることになった。おかげで一人＠９５０円で大正池まで行ける。じゃあタクシーをお願いしようとしたら、何とさっき駐車場でお金を受け取ったオジサンがタクシーの運転手だったとは。

大正池までの間、オジサンはガイドばりに解説をしてくれてなかなか良かった。
「沢渡には駐車場いっぱいあるけれど、みなさんが車停めた駐車場はあずさ駐車場の第二駐車場、“あずさ２号”と覚えて下さい。あぁ、若いお嬢さん方は知らないか。」

大正池に着くと天気は何の心配も無い青空。秋晴れの上高地である。ところでこの上高地、Ｓ治さんは今までまともに歩いたことが無いそうだ。おまけに
「いやぁ、上高地のホテルで食事するのってちょっと憧れてたんよ。よかったら食べてかない。あんまり高かったらやめておくけど」と大正池ホテルに向かった。
昼食用として諏訪湖 S.A.で高級パンを千円も買っていたのだが、するりと流れに飲み込まれた（またしても毛鉤パクッ！である）。

それがなかなか良かったのは二階の食堂から見える焼岳と大正池の眺めが素晴らしかった事。焼岳が池面に映っているだけでなく、上から眺める池の色が青、ダイダイ、ベージュと岸に近づくにつれて色が変化しているのが見て取れた。またそこに穏やかにたゆたうイワナの姿も見れたのだ。食堂を出る時には
「と～っても美味しかったです」というＳ治さんの決め台詞まで聞くことができた。

１１：１０、大正池から歩き始める。池の端から焼岳を眺める。グラインダーで削ったような何本もの深い溝が焼岳を焼岳たらしめている。本当はここで１枚描きたいところだがまだ旅の始まり、写真だけ撮って先へ進んだ。
田代池から燦燦と陽に照らされた霞沢岳を眺めた後、田代橋に向かう。
「ホ～ントいい所だねぇ」とＳ治さんの顔が綻んでいる。

田代橋を過ぎると一般の観光客は姿を消し登山者の領域となる。焼岳登山道入口に１２：１５、笹を分けた森の中へ入って行く。
時々下山の人とすれ違う。焼岳は日帰りの人が多く、ちょうど朝一で上った人が下りてくる時間帯なのだろう。

１，８００ｍを越えると樹木が低くなり霞沢岳が大きい姿を見せるようなった。
そしてこのコース名物の垂直に架けられた１５ｍの梯子。ちょうど僕らが取り掛かろうとした時に若者が上から顔を出した。
「どうする？」と尋ねると
「すいませ～ん、先行かせてもらいま～す」と梯子に足を掛けた。上からまた顔をだすのが居た。
「何人なの？」と聞くと３人だそうだ。
しかし一人目が下りても二人目がなかなか降りて来ない。
「下りないの？」と声を掛けるとやっと梯子に足を掛けた。やれやれ。
三人目がゆっくり降りてくるとまた上に人の気配。おいおい、自分らの事だけでなく全体を見て状況判断をしておくんなまし。

梯子を上り切ると斜面は緩くなり、すぐ左に逆光の焼岳が迫り、深く刻まれた溝がすぐそこに見える。細い路が熊笹の間に付けられ、空の面積がだんだん広くなってきた。そこまで上がり切った所がもう小屋だろう。

１４：４５、焼岳小屋に到着。ボルダリングしたくなるような巨岩と登山道を挟んで向き合うように緑色の屋根のかわいい小屋が佇んでいた。
小屋に荷物を置いて絵の道具だけ持って“展望台”へ向かった。小屋から１０分くらいだそうだ。

展望台の正面には逆光の焼岳が鎮座していた。北峰の溶岩ドームの形が特異である。左に目をやると霞沢岳、手前の色づいた山の向こうに穂高岳の上部、そして真後ろには笠ヶ岳が大きく笠を広げていた。
Ｓ治さんは光線の具合から「よしあれにしよう」と笠ヶ岳を描き始めた。しかし僕は逆光とは言え、ここに来た以上は焼岳を描いておきたかった。

山の縁取りを描き、目を凝らして全体を見るとうっすらと色味の違いが見えてくる。影だけではさえないから、光が当たったらこう見えるだろうという色味を付けてみることにした。
すると「できたー」とＳ治さんが言った。見せてもらうと相変わらず大人っぽい絵になっている。僕はまだまだ時間が掛かりそうだ。

しばらくそこに居たＳ治さんであったが
「おぉー、寒い。先に小屋に戻っててもいーい？」
Ｓ治さんはシャツ１枚で何も羽織っていなかったのだ。僕は上にヤッケだけ（焼岳）羽織っていたので大丈夫なのだけれど。
シルエットの中でうっすらと見える部分をつなげて色を塗り上げてみた。よし、これで終わり。

小屋へ戻るとＳ治さんがこの小屋のルールを教えてくれた。一階が食堂、二階を寝室にしていて、二階へは垂直の梯子で上がるため持ち込むのは貴重品だけで、ザックやなんかは入口奥の棚に置いておくそうだ。
二階は屋根裏部屋のような造りで、Ｓ治さんと僕は屋根の低くなった部分に足を入れて横になる寝床だった。
「我が家と同じ方式だなぁ」とＳ治さんは馴染んでいた。

今日の宿泊は６０歳以上のオジサンばかり７人。日帰りできる山に泊まる変わり者ばかりかもしれない。１８時からの夕食を２０分ほどで食べ終えてしまうと
「え～っ？まだこんな時間なの？」とＳ治さんが声を上げた。
群馬の長老や声の大きな横浜の人など最初はぎこちなく話していたのだが、小屋のアルバイトの女の子が話しの輪に加わると、彼女を中心とした太陽系のようになって全体が調和をなしていった。

外のトイレから帰って来た人が「星がすごいよ」と言っていたので見に行くと小屋と巨岩の間には満天の星が輝いていた。星が多すぎてわかったのはカシオペア座だけ。そこから測ってあれが北極星か。ちょうど登山道に沿って天の川が伸びていた。

元バイク乗りみたいなオジサンが外から帰って来ると
「俺、今ＵＦＯ見ちゃった」と言って携帯電話で動画を再生してみんなに見せた。
「ちょっとＵＦＯのカクカクした動きとは違うんじゃないの。」
「この動きは虫みたいだな。蛍じゃないか。」
「じゃあ上高地だけに“帝国ホタル”ですかね」と言うとオジサンたちみんな喜んでくれたが女の子だけがキョトンとしていた。
「上高地と言ったら帝国ホテルというくらい有名で…」と解説してくれたオジサンも居たが、オジサンにしかわからないギャグを“オヤジギャグ”と言うのだろうか。

女の子を中心とした太陽系はその後も賑やかに回り続け、いつの間にか消灯の時間になってしまった。
「え～っ？もうこんな時間なの？」とＳ治さんがまた声を上げた。
広いスペースと暖かい布団でその夜はぐっすりと眠れた。

６時の朝食を済ませパッキングを終えて７時に小屋を出発。展望台に上がると焼岳に陽が当たってその姿がよく見える。荒れた岩肌や溶岩ドームの立体感、昨日僕が描いた絵とはだいぶ違うのが正直ショックであった。う～ん、しかしまあ、昨日描いたのは昨日感じた焼岳だ。…負け惜しみと言われてもしょうがないが。
一方、Ｓ治さんは陽が真っ直ぐ当たっている笠ヶ岳を見て
「昨日に比べて平らになっちゃってるね。あれだとどうも描く気がしない。」

さあ、では目の前に立ちはだかる焼岳に向かいますか。登山道は溝に沿って付けられた岩の重なりを歩いて行く。所々煙が上がり硫黄の匂いがする。噴出口には湯の花の色が付いている。
今日もよく晴れている。遮るものが無く直射日光を浴びているが空気が乾いているせいで歩きやすく気持ちがいい。
「夏山ＪＯＹもいいけど秋山ＪＯＹもいいねぇ。行動時間は多少短くなるけれど、夕立とか無い分行動しやすい。決めた、もっと秋山ＪＯＹを計画しよう」とＳ治さん。

北峰の溶岩ドームがもうそこまで迫って来た。乾いた岩肌を上がって行く。最後は急な斜面になり、８：３０、北峰山頂に到着。穂高岳も下まで見え展望がいい。その左には槍も見える。霞沢岳は逆光になっていた。笠ヶ岳はやはり平らだ。
Ｓ治さんはさっそくスケッチブックを取り出し
「さて、じゃあどこを描こうか。私は穂高から槍にしよう。」
僕は梓川の流れを入れた上高地をめぐる構成にしようと思った。霞沢岳の影から始まって穂高から槍まで、ちょっと欲張りではあるが。

２０分もすると「できた～」とＳ治さんが声を上げた。僕はまだこれから色を塗り始めようというところなのに。
「Ｓ治さん、良かったらもう１枚描いていて下さいよ。」

やっと仕上がった。そしてそれぞれの描いた絵を持って記念撮影。絵の出来栄えをとやかく言うより、描いている間ずっとその景色を見ていられるというのが絵を描く楽しみだと思う。

１時間ちょっと山頂で過ごしている間にも人が次から次へと上がって来た。まだ９時を越えたくらい、しかも月曜日だと言うのに。でもこの秋晴れを狙って来たくなる気持ちはよくわかる。

さて、山頂から南斜面を中の湯方面に下山する。下山路は上高地側からよりも斜面が急だが結構な人数が上がって来る。日帰りだと安房峠に車を停めて往復する方が時間的に楽なのだろう（駐車場代もバス代もかからない）。
足場の悪い下りだが、こちらのいい所はみごとな紅葉が見られることだ。熊笹の緑の中に紅葉したナナカマドの低木がポツポツと顔を出し、Ｓ治さんいわく「可愛い」景色の中を下って行く。途中休んだ所からは穂高岳の手前に見事な紅葉黄葉が見られた。いや、本当にいい時に来られたものだ。

下堀沢出合の分岐を左に分けて中の湯バス停へ下りようと計画していたが、いつまで経っても分岐が出てこない。おかしいと思ってＳ治さんにＧＰＳで調べてもらうと

分岐の右の新中の湯ルートを下りていることがわかった。このルートだと中の湯温泉旅館の後方に下りることになり中の湯バス停まではつづら折りの坂を行ったり来たりしなければならない。しかしおかしい、注意していたつもりだが分岐らしきものは無かったはずだ。今さら引き返すべくもなく新中の湯ルートを下りていくことにした（後でわかったことだが中の湯ルートは何ヵ所か崩れていて、もう使われていないようだ)。

１２：４５、中の湯温泉に到着。フロントで中の湯バス停までのショートカットの路とかないですかと聞いてみたが「車道を３０分歩くほかないですよ。のんびり行きなすったらいい」と言われた。

次のバスまで４５分はあるので何とか間に合うだろうが、このつづら折りの急斜面にはゲッソリさせられる。

すると下から中の湯に向かってタクシーが上がって来た。赤いヤッケを着た人が乗っていた。もしかしたらあの人を下ろして引き返して来るかもしれない。もしあのタクシーが戻って来たら乗っちゃいましょうと話し合った。

３番の折り返しまで下りてきた所でやっとそのタクシーが戻って来た。沢渡までは４，０００円くらいだそうだ。バス代と待ち時間を考えたらリーズナブルな選択だ。ドアが閉まり沢渡までの道を気持ちよく走ってくれた。

「昨日今日は良かったでしょう。久し振りに最高の秋晴れですよ。」

「第二駐車場まで」と言ったのだが、着いた所はちょっと雰囲気が違う。取り敢えず降りたのだが、やはりここじゃない。あれれ、どうしようかと思ったら、今しがた降りたタクシーがＵターンして戻って来た。事情を話すとここは『市営第二駐車場』、そうだあずさ２号だった。『あずさ第二駐車場』はまだ先だそうだ。親切にもメーターを起こさずに走ってくれた。

おぉ、ここだここだ。愛車が陽だまりの中で休んでいた。ゆっくりザックを下ろし車に積め込む。あぁ良かったなぁ。お天気と人の情が気持ち良い秋晴れのあっぱれのスケッチ山行であった。

（Ｈ口　記）